

ランチョンセミナー11

# 腸内細菌・腸内環境と代謝疾患

## ～腸管恒常性維持における乳酸菌の役割～

2022年

3月27日 日

12:00 ~ 12:50

第3会場

(パシフィコ横浜 会議センター 3階 302)  
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1丁目1-1

座長

佐々木 章 先生 (岩手医科大学医学部外科学講座 教授)

### 第一講演：腸内細菌叢と循環器疾患・代謝疾患との 関連について

演者

山下 智也 先生 (神戸大学大学院医学研究科 内科学講座・循環器内科学分野 准教授)

近年、腸内常在細菌叢の相違が、代謝性疾患を含む様々な疾患の発症に関連するという報告がなされ、世界中で腸内細菌と疾患との関係が精力的に研究されています。我々は、臨床研究にて、冠動脈疾患患者で減少する *Bacteroides vulgatus* と *dorei* という2菌種を見出し、その菌を動脈硬化マウスに経口投与すると、動脈硬化抑制効果があることを発見しました。さらに、本菌を高脂肪食負荷肥満マウスに投与すると、褐色脂肪細胞機能に影響を与え、体重増加を抑制できることも示し、生活習慣病予防菌としての可能性を検証しています。腸内細菌を臨床において検査することの意義と治療標的としての展望をお話しし、皆様と議論できればと考えています。

### 第二講演：MI-2 乳酸菌の腸管免疫系を介した慢性炎症抑制 および糖代謝改善効果について

演者

八村 敏志 先生 (東京大学大学院農学生命科学研究科附属 食の安全研究センター 准教授)

食品による腸管免疫系を介した免疫・アレルギー制御について研究が進んでおり、近年では乳酸菌の摂取による慢性炎症の抑制およびそれに伴う疾病予防の可能性が注目されています。また、腸管における炎症の抑制は、内臓脂肪の慢性炎症抑制に繋がることが報告されています。そこで、我々は抗炎症性サイトカインである IL-10 を腸管免疫系において強く誘導する *Lactobacillus plantarum* OLL2712 (MI-2 乳酸菌) に着目し、生活習慣病を予防・改善する食品としての応用を検討しました。まず、動物モデルで同乳酸菌の経口摂取が腸管および内臓脂肪の慢性炎症を抑制し、腸管粘膜バリア機能を向上させることを明らかにしました。さらに、臨床研究では、同乳酸菌を含むヨーグルトの長期摂取により糖尿病予備群および肥満者において糖・脂質代謝および慢性炎症が改善されることを2つのRCTで明らかにしました。本セミナーでは、腸管免疫系的生活習慣病の予防・改善における役割、それを利用した MI-2 乳酸菌を含む食品の長期摂取による糖・脂質代謝改善の可能性について概説します。

本セミナーは、会場開催のみとなります。会場参加の場合、予め大会 HP からの事前参加登録が必要です。なお、会場での当日参加受付は行いません。何卒ご了承ください。詳細は、第42回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会のホームページ <https://www.c-linkage.co.jp/jasso42-jsto39/> をご確認ください。

共催：第42回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会 /  
株式会社 明治